

ocean+α

©ocean+ α ウェブマガジンの二次配
付および画像・文章の複製、二次使
用を禁じます

春夏秋冬、 那覇発で潜る 沖縄

OKINAWA SEASONS

Photo=Yasuyuki Saito

Text=Kaoruko Inou

Special Thanks=Okinawa Diving Service SENSUIYA

Design=Panari Design

世界に誇る日本の壮美、沖縄。

その春夏秋冬を、沖縄在住のカメラマン・齊藤靖行が、1年間を通して撮影した。
ガイドは、“那覇発で潜る!”というスタイルで沖縄全域をカバーするダイビングサービス・潜水屋。

そこから見えてきた、沖縄の海の四季の見どころに加え、
新しいスタイル“那覇発ケラマドリフト”の可能性を紹介する。

春夏秋冬、
那覇発で潜る
沖縄

OKINAWA SEASONS

南北に長い沖縄本島。多くの人にとって気軽に行ける“非日常世界”である沖縄は、そのイメージからか、車でびゅーっと簡単に周れてしまう気がするが、実は1周476キロ、南北107キロに伸びる、巨大リゾート地だ。いつがベストシーズンなのか気になるところだが、沖縄は「エブリーシーズン・ベストシーズン」。いつ訪れても、その時々旬な見どころがそろっているのだ。春夏秋冬、それぞれの魅力を一挙大公開！

空港からの利便性も高い那覇を拠点にすれば、マクロからワイド、のんびり浮遊型ダイビングから流れを攻める特攻型ダイビングまで、どんなスタイルも効率よく簡単に楽しむことができる。



OKINAWA SEASONS

春夏秋冬、那覇発で潜る 沖縄

2017 Spring [Okinawa]



ホソカマスも高確率で狙える

粟国名物ギンガメアジの群れ

春、特に5～6月はぜひ粟国島を狙いたい。

那覇にある“赤灯台”の通称で親しまれている那覇新港から、乗合の船に乗って約1時間半で、粟国島に到着する。

見どころはなんといってもギンガメアジ（以下、ギンガメ）の群れ。群れというより巨大な塊か壁と言った方が正しいかもしれない。海を愛するもの特有の言葉だが、魚の群れに厚みがあることを指す“魚圧”という言葉の意味をこれでもかというほど理解できるだろう。

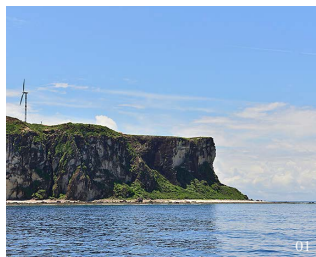
しかし、たくさん集まっているからとはいえ、ギンガメに突っ込んでいくのは粟国島のルールではNG。だが、ここのギンガメは向こうから近寄ってくることも多く、気が付いたらトルネードの渦中ということもしばしば。

ギンガメの他にも、大物ではイソマグロも回遊しており、ギンガメとイソマグロのコラボレーションは沖縄随一！「粟国は回遊魚では圧倒的です!!」と潜水屋のオーナー、小島純さんも胸を張る。

SEASONS

SPRING

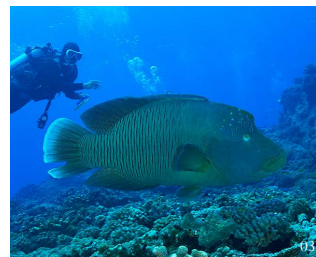
圧倒的な魚圧を狙う春。



01



02



03



04

- 01、ボートから見える「筆ん崎」
- 02、運が良ければカスマアジも登場する
- 03、人馴れしているナポレオンに遭遇
- 04、大型のイソマグロが根の上を回遊する



OKINAWA SEASONS

春夏秋冬、那覇発で潜る 沖縄

2017 Spring [Okinawa]

命溢れる春の終わりに。

SPRING

SEASONS

潜水屋では、7年前からサンゴの産卵時期について、リサーチを続けている。「産卵の統計はなんとなくとれているんですけど、固定されていないんですよ」というように、予測はなかなか難しそうだ。

5～6月に産卵が観測できるサンゴはミドリインシの仲間で、一般的には満月の大潮まわりが高確率。これは、沖縄本島に限ったことではなく、離島などでも同じだが、純さんいわく、リサーチをして唯一わかっていることは、「本島の場合は南から順番に産卵していく」ということ。そんなに水温は変わらなく思えるが、やはり海で暮らしている生物は敏感なのだろうか。本島でいえば、南に位置する北谷、真栄田岬、砂辺のあたりが最初に産卵し、宜野湾が最後のイメージだという。潮しだいで変動はあるものの、「あ、真栄田が産卵した！なら、この日くらいに宜野湾かな」と、潜水屋ではケストを連れていくタイミングを見計らっている。そのあとの産卵は、万座、名護と北へ向かっていく。ちなみに、ケラマなどの離島のほうが本島よりも早いそうだ。2017年にミドリインシの産卵を狙いたい場合は、6月6～15日くらいの間が、6月24日前後がいいとのこと。宇宙にワープしたような神秘的な生命のはじまりに目撃できるサンゴの産卵は、ダイバーとして一度は見ておきたい。



OKINAWA SEASONS

春夏秋冬、那覇発で潜る 沖縄

2017 Spring [Okinawa]



01



02

SEASONS

SUMMER



03



04



透明な身体がきれいなスカシテンジクダイ

渡名喜島の島尻先のブルーホールはケーブ好きダイバーにオススメ

この夏、1番人気のケラマ、 渡名喜へGO!!

夏のケラマは美しい。海底には白砂が広がり、“ケラマブルー”と称される淡い水色の海は、そこにただで癒しを与えてくれ、四方八方からマイナスイオンをたっぷり感じられる。ケラマへの船は、ほぼ毎日出港され、夏になればなるほど透明度は増し、乱舞するキビナゴを捕食しようと、アジやイケカズオ、ニジョウサバ、さらにはイソマグロなどがアタックする。

一方、あまり耳馴染みがないかもしれないが、中～上級者にはぜひ渡名喜島へ遠征してほしい。那覇からの出港回数はあまり多くないからこそ、レア感溢れるポイントで、“渡名喜に行ったことある!”と自慢できるほどだ。

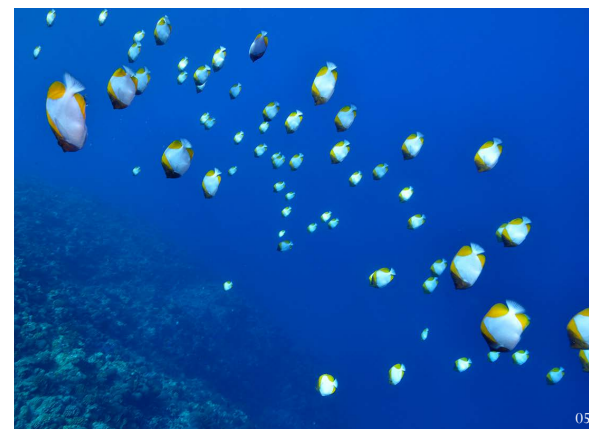
純さんのイチオシのポイントでもあり、「魚

影も透明度もダイナミックさも、ケラマを上回ります!! 1フレームに10匹入るくらいカメラだけのポイントもあるんです」と語気を強める。

基本的に渡名喜はドリフトダイビングなので、フリー潜降と中性浮力は必須となる。潜水屋では、すべてのダイビングで、ダイブコンピューターとシグナルフロートが必携とされている。

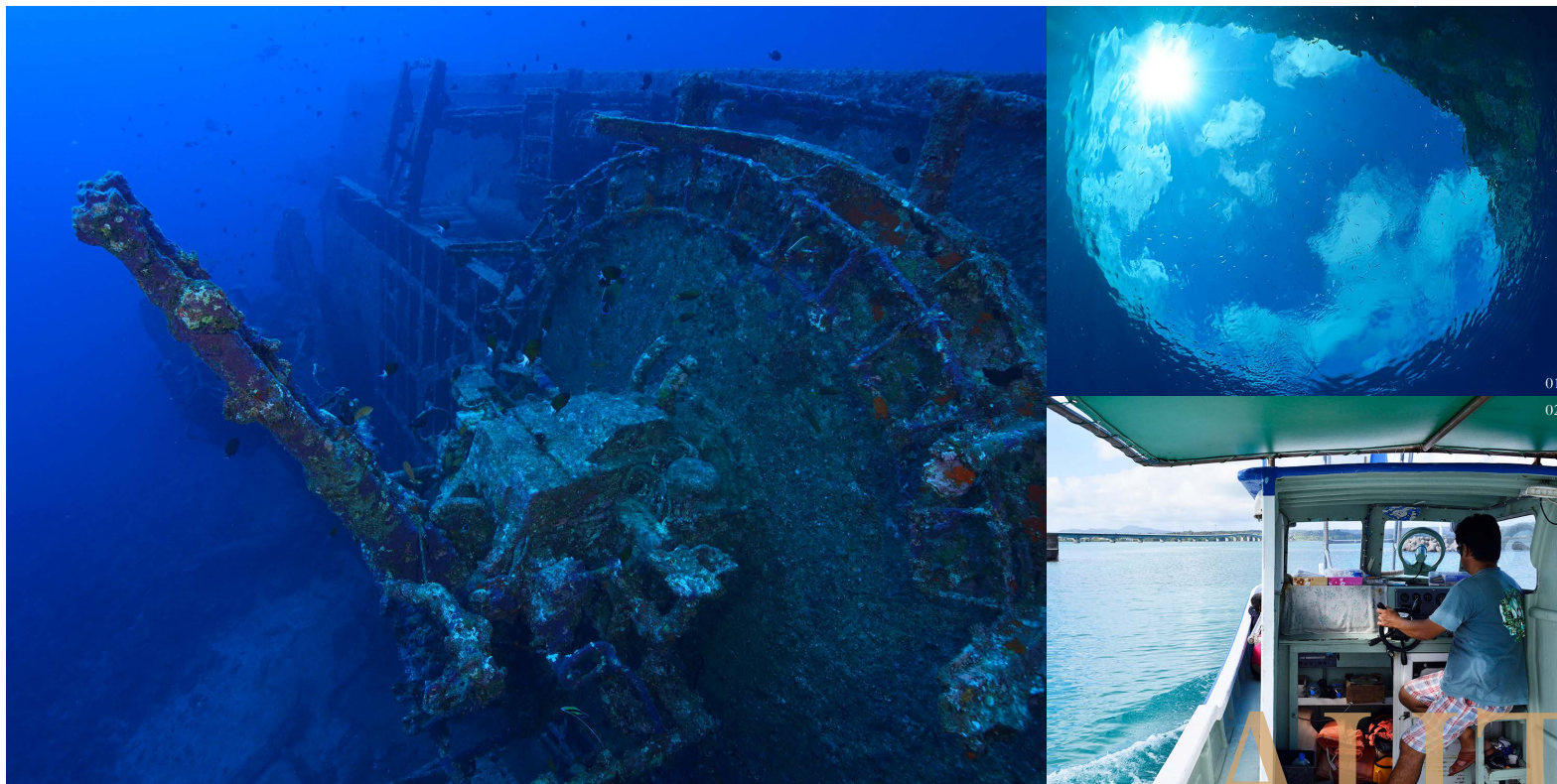


- 01, 可愛らしく泳ぐバンドゥノザヤウミウシ
- 02, 白砂広がるケラマブルーの海は、まるで“飛んでいる”ような浮遊感を味わえる
- 03, 早朝、那覇から渡名喜島へ向かう
- 04, カメに会える海として有名な渡名喜島。この写真もよく見ると3個体いる
- 05, 根の上にはカスミチョウチョウウオも舞う



05

OKINAWA SEASONS
春夏秋冬、那覇発で潜る 沖縄
2017 Spring [Okinawa]



01, 高さ80mの断崖絶壁「茅打チバンタ」もダイビングポイント。透明度が良いと水中から見上げることができる
02, エモンズへ向かう船内
03, 辺戸ドームで記念撮影



エモンズは、先の大戦で、日本軍の特攻機によってダメージを受け、機密漏洩を防ぐために米軍自らの手によって沈められた駆逐艦

沖縄唯一の鍾乳洞 & 沈船ダイビング

沖縄の秋は10月に入っても水温28度！秋になると深場は寒くなるから……と心配する必要はない。ということで、秋にオススメなのは、全長106mのエモンズという沈船ダイビングと、辺戸岬にある沖縄唯一の鍾乳洞ダイビングができる「辺戸ドーム」。

両方とも北風が吹くと潜れなく、また、那覇からだと遠征となるため、この時期でないとなかなか行くことができないポイントだ。

エモンズには船首と船尾、さらに中央付近にブイがうってあり、ブイからブイへダイビ

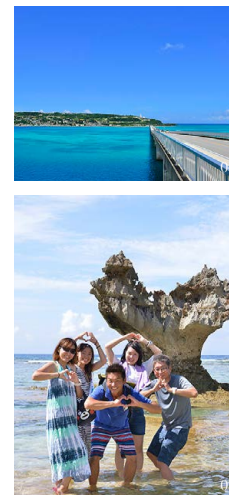
ングするのがノーマルなスタイル。オーシャナの編集長は船首から船尾まで一気に行こうとして死にかけたらしいが、「普段はそういう無謀なダイビングはさせませんので安心してきてください！」と純さん。

また、鍾乳洞でダイビングができる「辺戸ドーム」の全長は約30～40mで、狭いところでは1.5人分くらいの空間を泳ぐことになるが、メキシコにあるセノーテの縮小版のように探検心をくすぐられる。マクロでは、アケボノハゼやスジハナダイ、フタイロハ

MEMO

ハートロックで恋愛運UP!? @古宇利島

本島から一度屋我地島へ。そこからさらに古宇利島大橋を渡ると恋の島とも呼ばれる古宇利島へ到着する。那覇からは車で約1時間半の距離だ。ティーンズビーチは、岩がハート型に見えるとして人気の観光スポットだ。ダイビングをする場合には車で行って、1ダイブごとに港に戻るスタイル。古宇利島へ気になる相手と潜りに行ったらイコトあるかも!?



AUTUMN SEASONS

ナゴイ、スミレナガハナダイなど、綺麗どころの魚が水深25m付近で見られる。フォト派のダイバーは、マクロとワイドと両刀使いしたくなる贅沢ポイントだ。



OKINAWA SEASONS
春夏秋冬、那覇発で潜る 沖縄
2017 Spring [Okinawa]

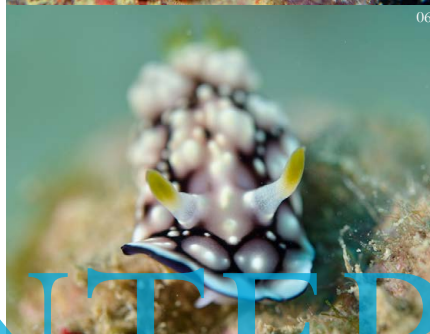
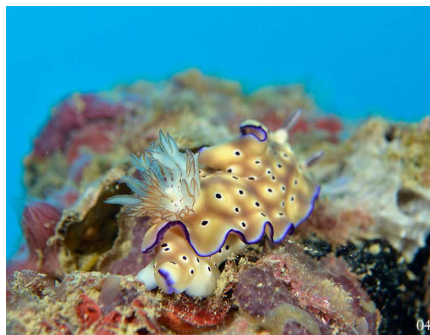


コブシメの卵は約2～3センチで、孵化には約70日かかる

ウミウシパラダイスの レッドビーチで レア種を探す！

WINTER

SEASONS



触手をきれいにすぼめて
サンゴの間に卵を産み
付けるコブシメ(ケラ)

沖縄のダイビングポイントは、そのほとんどが西側に位置している。那覇から正反対の東側にあるレッドビーチは、正直、アクセスがしづらいが、潜水屋は冬の時期、レッドビーチに行くことを惜しまない。

「高速を使って1時間はかかりますが……、他のポイントが荒れて潜れない時にも潜れるし、マニアックなダイビングができますから!」とその魅力を語ってくれた。

確かに、レッドビーチは完全に湾の中に入っているため、風の影響を受けることは少ない。そして、ウミウシの中では南国系のレア種、トゲウミウシが見られるという。1ダイブで見られるウミウシの数はだいたい20種類前後と豊富。冬の時期でも水温が20度を下回ることなく、しかも潜水屋はロクハンのレンタルもあるので、じっくりウミウシを撮影したい人にもってこい。

また、春を前にしてコブシメの産卵もはじまるので、冬は生態撮影が好きなマクロ派にはとても面白い時期になりそうだ。

- 01, ムカデミノウミウシ
- 02, フジナミウミウシ
- 03, レッドビーチでは、運がよければギンガメアジの子ども群れと遭遇できる
- 04, オトヒメウミウシ
- 05, ニシキツバメガイ
- 06, キカモヨウウミウシ
- 07, ヒョウモンウミウシ



OKINAWA SEASONS
春夏秋冬、那覇発で潜る 沖縄
2017 Spring [Okinawa]

ケラマといえば、流れのない白砂広がるパウダーブルーの海に、南国系の魚がゆらりと泳ぐ、そんなイメージだが、実はこれは湾内の話。

ケラマをドリフトで攻める!!

ケラマには、知る人ぞ知るもう一つの顔があり、潜水屋は、沖合に浮かぶ根の周りで通年（メインは7～10月）ドリフトダイビングを楽しんでいる。通年潜れる湾内にはなかなか姿を現すことはない大物代表格のマンタや、イソマグロ、おまけにロウニンアジに遭遇できるなど、優しい顔をしたケラマとは違って、攻めの横顔も持っているのだ。ケラマの新スタイル、“那覇発のケラマドリフト”を取材したとある1日の、齊藤カメランのレポートをお届けしよう。

＊

「早朝、朝焼けの淡い光に照らされた那覇の町を背にして、ダイビング船はケラマ諸島に向かって出港。ダイナミックな海を攻めるため、外洋の岩礁ポイントへ。私も久しぶりで朝から気分が高揚していた。

船は外地島の南方に位置するトムモヤ礁というダイビングポイントへ近づいていた。正確にはトゥムモヤーと発音し、波が四方から打ち寄せてしぶきを上げている隠れ根を意味する。永年に渡って伝えられてきた俗称なのだが、私はトム・ソーヤの冒険を連想して子供のようにはわくわくしていた。“大きな根が3つあるのでその間を泳いでいきましょう。マグロとロウニンアジが期待できます”という小島さんの言葉に、さらに胸が高鳴る。

エントリーすると目の前にはダイナミックな地形、力強い岩とそこに差し込む柔らかな光。ファインダー越しの景色に釘付けになりながらも何枚かシャッターを切ると、大きなアオウミガ

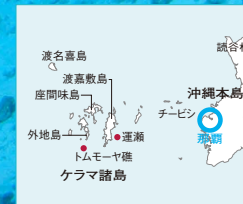
メが現れ、私たちを海底へと導いていった。

次に向かったのは、イソマグロが集まるポイントで知られている運瀬^{うんせ}。根で待つとグルクンが舞い、時折アジが狙いにやってくるが、今回はマグロには縁がなかった。ここは時折、潮の流れが複雑になる。安全停止に入る前、ダウンカレントに遭遇し、私の吐いたエアーが前のダイバーの周りをしばらく漂っていた。

最後はウチザン礁へ。前日マンタが出ていたとのことで期待が高まる。水深25mの水底の根がクリーニングポイントとなりマンタがやってくるのだ。下げ潮時が好調となるが、ケラマ諸島は島が多く点在するため潮の時間が大幅に遅れることが多い。時間を合わせてエントリーしたが少し早かったのかもしれない。待てども待てどもマンタはやって来ない。自然相手なので仕方がないと思いながら、そろそろ戻る時間だと諦め、船の方へと向かい始めた時、ついに現れた!

小島さんとアイコンタクトをとり、流れる潮に逆らってマンタの方へ向かった――。

マンタは海底すれすれのところをゆっくりと通過した。砂地に着底していないと流されてしまいそうな強めの潮で、残圧もギリギリだったことから、シャッターチャンスは一度。10枚程撮影をし、ダイバーの頭上を通り過ぎるマンタに後ろ髪を引かれながら浮上した」



ANOTHER FACE OF
KERAMA

クリーニングステーションに姿を現したマンタ (ウチザン礁)

OKINAWA SEASONS
春夏秋冬、那覇発で潜る 沖縄
2017 Spring [Okinawa]

Q.01

一番好きなポイントは？

「ケラマの黒島北です。ワイドからマクロまでバリエーションが豊富なのでいろんな趣味の人がいてもみんなで楽しめるポイントだと思います！」

Q.02

では、もし一人で潜れるとしたら

どこに行きますか？

「んー、ケラマの下曽根です！ 魚影は濃いんですが、一発大物を当てるって感じもあるので、ガンガンぶっ飛ばして泳ぎまくりたいです（笑）」

Q.03

春夏秋冬、好きな季節は？

「夏です！ あったかいし！ ガイドとしては春先ですかね。栗国遠征もあるし、僕、幼魚が好きなので（特にイロブダイとミナミハコフグ）」

※編注：一発大物狙うんじゃないのかーい（笑）

潜水屋 純さんに聞いた あれこれ

Q.04

なぜ沖縄で独立しようと

思ったのですか？

「オープンの講習をする前から面白かったら仕事にしようと思っていて、オープンには沖縄、インストラクター試験はオーストラリア、ガイドはモルディブ、独立は沖縄ってはじめから決めていたんです。ダイバーにすらなっていない段階で（笑）。なので、なんの迷いもなく沖縄でしたね」

Q.05

送迎はどうしていますか？

「那覇市内なら、無料で送迎しています。あとはレンタカーなどでショップまで来てもらっています」

Q.06

今度新しいことをする予定は

ありますか？

「あります、あります！ まずは、宿泊施設兼ショップにしたいと思っています。あとは、自分がコースディレクターになって、コースを充実させたいと思っています！」



小島純さん（左）、境俊弘さん（右）

SHOP INFO.



MEMO

日本一早い夏祭り「琉球海炎祭」

毎年4月頭に、宜野湾海浜公園で開催される海炎祭。潜水屋ではボートをチャーターし、ショップの周年記念パーティーも兼ねてみんなで日本一早い夏祭りを楽しんでいる。10,000発上がる花火は迫力があり、しかも船で見られるのはなんともロマンチック。毎年人気のあるイベントなので希望者はお早めに!!

“飲まない・吸わない・撮らない” 安全第一「潜水屋」

1年間の春夏秋冬とケラマのドリフトを紹介してくれたのは、那覇にショップを構える〈潜水屋〉。バリエーション豊かなダイビングポイントのラインナップにも驚きだが、特筆すべきは、安全管理3か条。3か条とは、「仕事で潜る前日は飲まない、365日完全禁煙、仕事中にカメラを持って入らない」。ここまで徹底するのは、なかなか難しい。潜水屋のスタッフ2人は、沖縄に来る前は、神子元やタイ、オーストラリア、モルディブなど、流れの強い海で経験が豊富ということもあって、ケラマのドリフトに辿り着いたのだとか。春夏秋冬、全域を潜りたいなら潜水屋のドアをノックしてみよう。

潜水屋

〒900-0002 沖縄県那覇市曙3丁目11-19
Tel&Fax 098-988-9398 営09:00 ~ 19:30
<http://www.okinawa-d-s.com>